

無料アップグレードの対象となる Windows 7/8.1 搭載の PC は、この機会に Windows 10 を導入すべきなのだろうか。

## ITmedia PC USER より

結論から言うと、「不都合がない限りは、Windows 10 にアップグレードしたほうがいい」となる。不都合とは、動作しない周辺機器やアプリケーションがある、メーカーサポートが受けられなくなるといった問題だ。

Windows 10 導入後はユーザーインターフェースの変化に慣れが必要だが、Windows 8.x で省かれたスタートメニューが完全復活するなど、Windows 7 から Windows 8.x に乗り換えるより違和感は少ないはずだ。また、仮想デスクトップ、Windows ストアアプリのウィンドウモード表示、通知と設定がまとまったアクションセンター、音声対応パーソナルアシスタントの「Cortana」、高速な起動やスリープ移行など、Windows 10 で加わった新機能や、強化されたセキュリティを享受できるメリットもある。

そして Windows 10 導入のメリットで最も大きいのはサポート期限の延長だろう。Windows 7 は 2015 年 1 月 13 日にメインストリームサポートが打ち切れ、2020 年 1 月 14 日には延長サポートも終了する。Windows 8~8.1 は 2018 年 1 月 9 日にメインストリームサポート、2023 年 1 月 10 日に延長サポートが終了する。延長サポートが切れると、セキュリティアップデートが提供されなくなるため、情報漏えいなどのリスクは増大してしまうのだ。

一方、Windows 10 は現状でメインストリームサポートが 2020 年 10 月 13 日、延長サポートが 2025 年 10 月 14 日まで受けられる。今後どれだけ既存の PC を使い続けるかにもよるが、長期運用を考慮すると、最新の Windows 10 を導入しておいたほうがベターだ。

### ●PC メーカーのサポート情報も注意

一方で、アップグレードによって不具合が生じるケースもあり、その場合は判断が必要となる。基本的に Windows 7 が動作するようなマシンであれば、PC の内部スペック的にはほぼ問題なく Windows 10 へとそのままアップグレードが可能だ。

ただし、非常に古いプリンタ、TV チューナーやキャプチャーカードなど、Windows 10 で動作するドライバやユーティリティが提供されておらず、こうした非サポートのハードウェアを PC に内蔵または外付けしているケースもあるだろう。

これらの互換性情報は、PC 本体や周辺機器のメーカーが公開しているので、アップグレード前に確認しておくべきだ。また古い機種 of PC については、Microsoft ではなく、PC 本体メーカーが OS アップグレードをせずに利用し続けることを推奨している場合もあるため十分注意したい。

## ●古いアプリケーションは動作しない場合も

次にあるのがアプリケーションの問題だ。基本的には現状で最新版や互換性情報が提供されているようなアプリケーションであれば、何らかの対応手段が用意されている。

ただし、アップデートの止まってしまったような古いアプリケーション、現時点で「Windows 10 対応が検証できていない」というアプリケーションもある。古いアプリケーションの中には、アプリケーションのアイコンを選択して右クリックメニューで表示されるダイアログの「互換性タブ」にある「互換モード」の項目で調整可能なものもみられる（高DPI設定の問題など）が、そうでないものも多く存在する。

恐らく既にアップデートの止まっているような古いアプリケーションが Windows 10 で動作しないという報告があった場合、これを最新 OS で動かすことは難しいだろう。特に古くから使い続けてきたフリーソフトなどは注意が必要だ。もし、どうしても旧アプリケーションを生かしたいと考えているならば、「特定のアプリケーションを捨てる（代替できるものを探す）」か「旧 OS のまま使い続ける」かの 2 択になる。

## ●DVD は何のアプリで再生する？

OS の標準アプリケーションに関しても、Windows 7/8.1 と Windows 10 で変更があるので注意したい。1 番大きな問題は、Windows 10 でマルチメディア統合ソフトウェア「Windows Media Center」が廃止されたことだろう。恐らく特許絡みの問題だと思われるが、Windows 8.1 以前のマシンで Windows Media Center を使っていたユーザーは、Windows 10 以降に同アプリケーションを利用する「DVD 再生」が行えなくなる。

Microsoft は、期間限定で Windows 10 対応の「Windows DVD プレーヤー」というアプリケーションを無料配布していたが、Windows Media Center に比べて機能が限られているほか、不具合が多いなど、評価があまり芳しくない。Windows 10 で DVD を再生したい場合、Windows ストアで有償の DVD プレーヤーアプリや、「VLC for Windows Store」のような無料のメディアプレーヤーアプリを探して導入するとよいだろう。

## ●Windows Update は自動更新のみに

もう 1 つ、Windows 10 に移行して問題となりがちなのが Windows Update だ。Windows 10 Home の場合、Windows Update は完全に自動化されて手動更新が行えなくなる。ユーザーは Windows Update 後の再起動日時を手動設定して、不意の再起動を防ぐくらいしか対策がない。Windows 10 Pro であれば、Windows Update でセキュリティ以外のアップデートを数カ月遅らせることができるが、こちらも完全な手動設定はできなくなっている。

常に Windows 10 が最新状態で保たれるというメリットがある一方、アップデートのタイミングや、そもそも特定のアップデートをするかしないかを選択できないのは困るというユーザーも少なくないだろう（まれに Windows Update 自体に不具合があり、トラブルを引き起こすことだってある）。ここは Microsoft を信じて、自動更新を受け入れるしかない。

#### ●7月29日を過ぎると Windows 10 は有料に

7月29日の無料アップグレード期限を過ぎると、PC向け Windows 10 は有料になる（米国では Windows 10 Home が 119 ドル）。現時点で日本の Microsoft Store にはダウンロード版と USB 版が販売されており、直販価格は Windows 10 Home が 1万9008円、Windows 10 Pro が 2万7864円（いずれも税込）だ。無料アップグレード期間を逃すと、Windows 10 の導入コストは安くはないことを覚えておきたい。

もっとも、Windows 10 の無料アップグレードについては、直ちに実行しなくても、7月29日近くまで様子を見て決めるという選択肢もあり、場合によってはアップグレードしないで既存の Windows 7/8.1 環境で Microsoft の延長サポート切れまで使い続けるという選択肢もある。

アップグレードするかどうか迷っているユーザーは、ハードウェアとソフトウェアの対応状況、新機能と変更や廃止となる旧機能、セキュリティ、サポート期間などを考慮し、無料アップグレード期間内に判断したいところだ。

しかし、いざ Windows 10 を導入することに決めたとしても、Windows 10 のアップグレード作業で何らかのトラブルが発生しないとも限らない。アップグレード前には、大事なデータを別の外付けストレージや NAS、クラウドストレージなどにバックアップしておくべきだ。ちなみに、Microsoft は Windows 10 アップグレードに関するエラーの意味と解決方法を公開している。

また、Windows 10 にアップグレードしてから1カ月未満ならば、「設定」メニューの「更新とセキュリティ」にある「回復」から、以前のバージョンの Windows に戻すことができる。「Windows 10 を導入したら予想外に動作しないハードウェアやソフトウェアがあって困った」といった場合でも、元の環境に戻せる点を覚えておきたい。

[鈴木淳也 (Junya Suzuki), ITmedia]